

## 令和2年12月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時	令和2年12月21日(月) 午後1時30分		
場 所	市庁本館3階 議会第2委員会室		
出席者	教育長	伊藤	博章
	教育委員	大庭	文武
	教育委員	築瀬	眞知雄
	教育委員	油川	育子
	教育委員	小瀬川	喜井
事務局出席職員	教育部長	石亀	純悦
	教育部次長兼教育総務課長	橋本	淳一
	教育部次長	中村	雅臣
	学校教育課長	大館	秀光
	教育指導課長	南館	義孝
	社会教育課長	館合	裕之
	是川縄文館副館長	松橋	広美
	総合教育センター所長	竹花	和人
	こども支援センター所長	大坂	吉弘
	図書館長	田茂	隆一
	教育総務課参事	尾崎	紀子

## 開 会

(伊藤教育長)

定刻となりましたので、令和2年12月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、大庭委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

### 主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御質問などありましたらお願いします。

[質疑なし]

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議いたします。

はじめに、議案第40号「八戸市立小学校及び中学校の管理に関する規則の一部を改正する規則の制定について」事務局からの説明をお願いします。

### 議案第40号 八戸市立小学校及び中学校の管理に関する規則の一部を改正する規則の制定について

(大館学校教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見・御質問などがありましたらお願いいたします。

(築瀬委員)

夏季休業日が2日間延長となることについては賛成であります。この夏季休業日の期間については、これまで様々な経緯がありましたので、その点を含めて述べたいと思います。

一点確認したいのですが、今回の規則改正においては、夏季休業日が2日間延長になるということですが、実態としては、以前に削減された夏季休業日の日数が元に戻ったという認識でよろしいでしょうか。前回、休業日の日数が変更されたのは平成21年度であったかと思いますが、その際は夏季休業日が2日、冬季休業日が1日短縮になっていると思います。

(大館学校教育課長)

築瀬委員からお話があったとおり、平成21年度に夏季休業日を2日間、冬季休業日を1日間短縮しております。

(築瀬委員)

ありがとうございます。当時、私は小学校長会の会長をやっていました。夏季休業日の短縮については、平成20年度に教育委員会から夏季休業日を3日間削減したいという提案を受け、校長会で話し合いを行い、

アンケートをとりまとめた記憶があります。当時のアンケートでは、小学校長会の約44%の校長が休業日の短縮案に「反対」あるいは「修正」という意見だったのです。なぜかという、当時は学習指導要領が改定する時期と重なっており、平成21年度、22年度はその移行措置期間であり、平成23年度から全面实施というスケジュールでしたので、各学校では全面实施に向け、行事の精選、授業時間数の確保、教育課程の工夫などに取り組み始めていたところだったのです。ですので、その様子を見てから判断してもらいたいという理由でした。

また、もう一つ大きな理由もありました。当時は夏季休業期間中にいろいろな行事が行われていましたので、子どもたちの地域行事や課外活動への参加の機会が減ることや、長期の休業を活用した自主的な学習時間の確保等への懸念がありました。また、教職員においては、夏休みや冬休み期間中に職員会議や研修を行っていたので、そのような時間を平日にやる必要があったのです。今は平日の会議が当たり前になっていますが、当時はどこの学校もジョイントスクール推進事業を夏休みの後半に行っていたので、日程的に苦しくなるということなどが主な理由だったのです。結果として、当時の小学校長会の修正意見は飲んでもらえなかったのですが、夏季休業日3日間の短縮が変更になって、夏季休業日2日、冬季休業日1日短縮ということになったという経緯がありました。

今回の改正で夏季休業日が2日間延長になるわけです。説明資料の改正理由の中に、「各学校における教育課程編成の工夫等により、年間の必要な授業時間数が十分に確保されている」と記載されており、この部分はとても重要なことでもあります。これまでの各学校の努力があって、夏季休業日を2日間延長することができるということ、その点については十分に評価してあげる必要があると感じています。

少し話は逸れますが、私は教育の中においては、知識を詰め込むだけの机上の学習だけではなく、子どもたちの人間的な感情、人間らしさという部分を大切にしてほしいと思っています。論理的な思考力ばかりを重視するのではなく、総合的な学習や生活科、特別活動といった体験的な学習や活動を中心とした様々な教科など、そういった部分を軽視しないようにしなければなりません。

最後になりますが、この授業時間数の確保と同時に、授業の質の確保も考えていく必要があると思います。また、行事を精選する中で、その行事で子どもたちが大きく育っているということも、やはり忘れてはいけないことであろうと思いますので、この夏季休業日の2日間延長に込められた大きな意味を踏まえ、各学校の取組を評価しながら進めていただきたいと思います。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。そのほか何かありませんか。

(大庭委員)

昨年、小・中学校においては新型コロナウイルス感染拡大防止のため一斉休業となりました。八戸市の場合は授業時間数を確保できていましたので、他都市に比べて夏休み、冬休みの期間を大きく減らすこともなく、比較的早く普通の学校生活に戻れたのではないかと思います。

今回の改正理由の中に書かれている授業時間数の確保については大丈夫だと思っています。また、理由として熱中症予防についても挙げられています。今般の八戸市議会定例会の一般質問の中にも、冷房設備の設置について質問がありました。今後、事業を進めていったとしても設置には3年間くらい期間がかかるかと思っています。暑さ対策として夏休みが2日間延びるということは、子どもたちが地域であったり、自

然であったり、あるいは家庭において様々な体験をするいい機会であるかと思っておりますので、賛成したいと考えています。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。そのほか何かありませんか。

[質疑なし]

それでは、議案第40号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第40号を原案のとおり決定いたします。

以上で、議案の審議は終わりました。

次に報告事項にまいります。はじめに、「令和2年12月八戸市議会定例会一般質問について」は、事前に資料が配布されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたらお願いします。

#### **【令和2年12月八戸市議会定例会一般質問について】**

(油川委員)

7ページ、岡田議員からのこども支援センターへの一般質問を拝見しまして、感想を述べさせていただきます。

こども支援センターは、今年度の途中より総合保健センター内に移転し運営しております。そのことによって、これまで以上に関係部局との連携が強化されて、利用する保護者、幼児、それから児童生徒の皆さんにとっては、安心感や信頼を深められていることと実感しております。ハード面においても個人情報を守られる動線になっており、子どもたちの特性を理解しながら、その子の良さを生かしていけるようなすばらしい設計になっています。

また、私が一番感じたことは、このようなハード面を十分に生かすことができる専門性が高いスタッフの皆さんの献身的な姿勢に感動いたしました。センター所長を始めとする皆様の御努力に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

(小瀬川委員)

5ページ、6ページになります。岡田議員より質問のありました「児童生徒並びに教職員のコロナウイルス感染症に罹患した場合の学校対応」について、感想を申し上げます。

今月の中旬になりますが、私の子どもが通う中学校で今年度初めて地域連携学校協議会を開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を十分にとった上で、地域の委員の皆様を学校にお招きいたしました。会議の中では、万が一、学校内で感染が発生した場合の感染者の特定であったり、いじめ

やからかいを心配する声、その際の学校の対応についての質問も出されました。今年度は学校行事が縮小、延期になったことで、保護者や地域の方々が学校の情報を得るすべが少なかったため、様々な不安を持ちながら生活している方が多かったような印象を受けています。

答弁内容にもありますが、学校での指導や取組について、積極的にホームページや学校だより等を通じて発信していくことが大切だと思っています。子どもたちを守っていくためにも家庭、地域、学校が連携していく必要があると思いますので、私からも重ねてお願いいたします。また、万が一、児童生徒、身近な人、教職員が感染してしまった場合には、差別や偏見が生じることのないよう対応いただきたいと思えますし、それが一過性の指導にならないように重ねてお願いいたします。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

(大庭委員)

二点ほど述べさせていただきます。一点目は、4ページ「えんぶりの日」についてです。昨年度は平日開催ということもあり、参加・鑑賞した児童生徒は小・中学生の2割程度との記載がありました。私は、この「えんぶりの日」を通して、子どもたち、あるいは若い人たちがそういう伝統芸能に関わっていくということは、これからの時代もずっと大事にしたいと思っていますので、少し寂しかったなど感じています。来年2月のえんぶりの開催については、現在検討中との報道もありました。教育委員会、学校での「えんぶりの日」の対応については、今後の検討課題かなと思います。今年度は開催が難しいかもしれませんが、このコロナ禍が終わり、地域や保護者、そして関係機関が連携を取りながら、この「えんぶりの日」が定着してほしいと願っております。

二点目になります。9ページ「アンガーマネジメント」についてです。このことについては、自分自身の中で、怒り、悲しみ、劣等感などを整理して、客観的に自分を見ながらコントロールする。そして、自分なりに解決しながら人間関係を形成していくというような流れ、プログラムであろうと自分なりに解釈しております。旭ヶ丘小学校では、年間を通じて継続的にアンガーマネジメントプログラムを実施しているということで、全国的にも珍しい事例であるとのことでした。素晴らしい取組であるかと思えますので、実際に取り組んでいる具体的な内容や実践例があれば紹介していただければと思います。

(南館教育指導課長)

旭ヶ丘小学校のアンガーマネジメントの取組については、5、6年生の児童が、主に総合的な学習の時間に行っています。まず、5、6年生と一緒に、全職員がアンガーマネジメントの校内研修を2回行っています。その後、アンガーマネジメント協会から出されているテキストに沿って4回授業を行い、計6回のプログラムとなります。大庭委員からありましたけれども、怒りを出さないのではなくて、怒りを上手に抑えながら、子どもたち同士の関わりを良好にしていくものでございます。

(大庭委員)

少し具体的なものが見えました。先生方の研修をしながら、それを子どもたちに行っていくということで、簡単に言えば、子どもたちの感情のコントロールを、仲間づくりの中に落とし込んでいくという感じ

でしょうか。それが実際の活動の中で上手くできればいいわけですね。ありがとうございました。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

[なし]

それでは、よろしければ次に入らせていただきます。

次に、「八戸市学校施設の長寿命化計画策定について」事務局からの説明をお願いします。

### 【八戸市学校施設の長寿命化計画策定について】

(橋本次長兼教育総務課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見・御質問などがありましたらお願いいたします。

(大庭委員)

個別施設計画の冊子の中で、3ページ目に学校施設の目指すべき姿が三点示されています。いずれも大変重要な視点であろうと思います。特に私が注目したのは、「(2)安全とうるおいをもたらす施設環境の実現」になりますが、簡単に言うと「学校における生活空間の充実」だと思います。こういう見方は良くないのですが、(1)と(3)に比べ、文字数が少し多くなっていますので、それだけ重要な部分であると同時に、個人的に特に嬉しいと思った内容でした。

その(2)の中では、学校が生活の場であること、そして安全な施設であること、バリアフリー化を目指した施設であることが書かれています。また、友人と語り合い、悩みを相談しあったりする豊かでうるおいのある空間であることとあり、学校においては、ここが本当に重要なことではないかなと感じています。子どもたちが交流する場であると同時に、こういううるおいのある空間、これがやはり学校に必要なものであるという思いを常々持っていました。最後の段落では、持続可能な社会実現の観点から、環境と調和のとれた地球環境に配慮した施設整備になるよう進めていくとあります。ここに書かれていること、示されていることは、やはり学校施設の目指すべき姿の一つとして大事にしてほしいと思っています。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

(築瀬委員)

学校施設整備の今後10年間の計画ということで、過去の分析から今後の見通しまで、緻密で本当に気の遠くなるような内容になっていますので、事務局の策定作業は大変であっただろうと思います。大変感謝申し上げます。昔、学校現場にいた者としては、毎日のように学校からの修繕要望が教育委員会に届いていると思いますが、事務局では、予算的にも全部の修繕要望に応えられないというジレンマを抱えながらも、前向きにこのような施設整備の計画策定を行っていただいたことには、本当にありがたいことだと思います。

っています。お疲れさまでした。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

[なし]

それでは、次に入りたいと思います

次に、「是川縄文館展示解説アプリケーションの運用開始について」事務局からの説明をお願いします。

**【是川縄文館展示解説アプリケーションの運用開始について】**

(松橋是川縄文館副館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見・御質問などがありましたらお願いいたします。

(小瀬川委員)

私は早速このアプリをダウンロードして体験してみました。日本語については、非常にさわやかで耳障りの良いきれいな声でありました。まるで施設を訪れたかのように自宅で聞くことができました。東北では3県ほどしか登録していないようですが、素晴らしいアプリであると思いました。コロナ禍では施設に行けないこともありますので、このようなアプリを通して展示鑑賞することも、一つの鑑賞方法であると感じました。これからホームページ等で周知されていくと思いますが、素晴らしい可能性のあるアプリ導入であると思いました。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

(大庭委員)

私も小瀬川委員と全く同じ感想になりますが、大変良いものを導入されたと思います。私のようなスマホ操作の苦手な人間でも、しっかりと音声解説までたどり着くことができ、八戸東高校の生徒さんの声で案内を聞くことができました。是非これが広まっていけばいいなと感じております。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

(油川委員)

私からも感想を述べさせていただきたいと思います。高校の放送部の生徒にガイドをお願いするということによりまして、高校生が八戸市埋蔵文化財センターに興味を持つ、一つのきっかけになるのではないかなと思いました。また、英語解説ができたということで、今後の観光客の幅の広がりにも対応できると

思いました。是川縄文館がこのような画期的なシステムを導入したということは、市の活性化につながっていくと思いますので、建設的な取組に心より感謝申し上げます。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

[質疑なし]

それでは、次に入りたいと思います

次に、「八戸藩遠山家日記第九巻の刊行について」事務局からの説明をお願いします。

### **【八戸藩遠山家日記第九巻の刊行について】**

(田茂図書館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見・御質問などがありましたらお願いいたします。

(油川委員)

感想を述べさせていただきます。時代背景から見ても、かなり興味深い内容であるなと思いました。江戸末期から明治初期は、社会や政治、それから文化も大きく変わって、これまで上級武士であった遠山家の皆さんが武士でなくなった時代でもあるわけですから、生活の変化や、戸惑いの受け止め方など、非常に興味深い内容であると思いました。それと同時に、社会変化の乗り越え方についても学ぶ機会になるのではないかなと思いました。前回に引き続きまして、八戸市民にとって歴史と文化への理解が深められるいい機会になるのではと思いました。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

[質疑なし]

その他、事務局からの報告事項ありますか。

### **【令和3年八戸市成人式の延期について】**

(館合社会教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見・御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]



その他、事務局からの報告事項ありますか。

〔なし〕

事務局からは以上のようなようです。

最後に、その他ですが、委員の皆様方から何かありますでしょうか。

(小瀬川委員)

一点、質問させていただきます。報道等において、来年度からの公立小学校の2年生以上の学級編成において、段階的に全学年35人まで引き下げるといった動きがございます。現時点での市内公立小学校における影響、今後の課題等ございましたら教えていただきたいと思います。

(大館学校教育課長)

国からの正式な通知はございませんが、委員からお話があったとおり、今後政府は、公立小学校の1学級当たりの上限人数を来年度から段階的に引き下げて、全学年35人とする方針であることが報道されております。

現在の1学級当たりの上限は、小学校1年生のみ35人とされており、小学校2年生から中学校3年生までは40人という規定になっております。来年度はその上限を小学校2年生で35人学級とし、毎年1学年ずつ拡大していくことで、最終的には小学校全学年で35人学級とする方針であります。この基準に照らし合わせますと、来年度の小学校2年生においては、市内42校のうち2校において学級数の変更が必要になる予定です。また、来年度は3年生以上の学級基準の変更はありませんが、仮に当てはめると、3年生だと6校、4年生だと5校、5年生で4校において影響があることが想定されます。

なお、ただ今説明した国の基準以外になりますが、青森県独自の取組として、これまでも2年生については弾力的に学級上限を35人と定めておりました。ですので、2年生については来年度の学級数や教職員の配置等については、大きな影響はないかと思っております。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。そのほか何かございませんか。

〔なし〕

閉 会

(伊藤教育長)

これもちまして令和2年12月の教育委員会定例会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後2時36分閉会)